

# 官衙登場前夜 地方豪族の存在

## 埴輪片が語る「豪族」の存在

まずは展示ケース内をご覧ください。土器のかけらのような破片があります。実はこのかけら、円筒埴輪の破片なのです。

この円筒埴輪片は、吉田キャンパス南東端部に位置する動物医療センター横の牧草地にて採集されたものです。この事実は、周辺にかつて古墳が存在していたことを示しています。

考古学にあまり詳しくない方は、「古墳に埴輪はつきもの」と思われるかもしれませんが、下の衛生写真をご覧ください。山口盆地・宮野盆地・大内盆地では、丘陵部を含めると100基を超える古墳が確認されていますが、その中で確実に埴輪を有している古墳は山口盆地榎野川右岸部に位置する赤妻古墳（直径約32mの円墳か：山口市赤妻町73番地）と大内盆地仁保川左岸部に位置する大塚古墳群第1号墳（直径36mの円墳：山口市大内長野字岡村）の2基しか存在しないのです。さらに広域に目を転じて、古墳時代の榎野川河口右岸部にあたる場所に立地する浄福寺古墳（直径約40mの円墳：山口市嘉川字赤坂）を数えるのみです。

これらの古墳は、当地域としては墳丘規模も大きく、さらに埴輪を有していることから考えて、豪族層の墓と見なされます。古代律令国家は、地方の律令化に際し豪族層の協力を得ていたことが指摘されています。吉田の地に官衙が出現した背景にも、地方豪族の存在があると見て間違いありません。



山口盆地・宮野盆地・大内盆地における埴輪を有する古墳の分布状況